

# 公表 事業所における自己評価結果

事業所名 ここいる

公表日 令和8年3月20日

回収率 100%

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材は適切であるか。	5	0	・ご意見を参考にしながら記録用紙の改善に努めている。	
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	・その都度、対象児童について情報の共有が行われている。	
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・アンケートを実施している。	
	5 職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・様々な職種の実務員が感じたことを記録や口頭で聞き、次回の訪問に活かせる。 ・定期的に訪問支援員が集まり会議を実施している。	今後も支援員間での情報の共有を大切にし、支援に活かせるよう心掛けて参ります。
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	・必要に応じて外部評価を行っている。	必要に応じて外部評価を行っていきます。
	7 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	・毎月スタッフ主催による勉強会を行っている。	
適切な支援の提供	8 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	5	0		
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	5	0	・訪問時によく情報を共有させていただいている。 ・支援計画は、担当の先生のご意見も盛り込みながら作成している	
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	12 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	・必要に応じて検査を実施している。	
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	・スタッフ間で支援の気づきを共有しております。	
	17 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	5	0	・訪問先のご迷惑にならないように配慮しながら訪問支援を行っている。	
	18 毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	19 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	・必要に応じて面談を実施している。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・必要に応じて、児童発達管理責任者だけでなく、支援に携わっているスタッフも同席している。	
	21 地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0		
	22 就園・就学時の移行の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0		
	23 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	4	1		必要に応じて外部からの助言や研修の実施を検討していきます。
	24 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	5	0		
	25 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
26 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		必要に応じて、今後実施を検討していきます。まずは保護者の方との面談から支援をして参ります。	

保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	・契約時に説明をしている。 ・質問があった際には、担当の者から説明をしている。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	5	0		
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	・定期的に面談や、来所時に訪問時の様子をお伝えするようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	・必要に応じて実施をしていく。	必要に応じて実施を検討していきます。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0	・ホームページを利用して情報の発信を行っている。	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0			
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	5	0		
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	5	0		
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	5	0		
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	5	0			
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0		

# 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名		ここいる		
○保護者等評価実施期間		令和7年10月22日	～	令和8年1月31日
○保護者等評価有効回答数		(対象者数)	140 (回答者数)	76
○従業者評価実施期間		令和7年10月24日	～	令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数		(対象者数)	5 (回答者数)	5
○訪問先施設評価実施期間		令和7年11月1日	～	令和8年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数		(対象者数)	29 (回答者数)	24
○事業者向け自己評価表作成日		令和8年3月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種の支援員が専門性をもって観察、評価することができるため、必要に応じて他職種の視点でお子様の状態について意見を求めることができ、支援の幅が広がる。	訪問支援員間での情報共有を密に行い、よりよい支援方法を考えていくようにしている。	担当者に一貫性を持ちながらも、必要に応じて他職種に意見を求める体制にします。これによって、支援の継続性を保ちつつ、多面的な評価も実施することができます。
2	訪問先施設の生活の流れや教育活動にご迷惑にならないよう配慮する柔軟な訪問を心掛けている	訪問先施設の生活の流れや教育活動にご迷惑にならないよう配慮しながら行えるよう、訪問支援実施後の情報共有等を行っている。	様々な環境や状態にある訪問先施設のご都合にも配慮できるよう、訪問先施設の方が感じられていることを気軽に伝えていただけるような関係性構築を目指していきます。そのために、来年度よりOJTによる訪問支援員の教育に取り組んでまいります。
3	デイに通っているお子様はその送迎時、訪問支援のみのお子様は記録の受け渡し時に、保護者の方と訪問時の様子や児童の日頃の様子などを共有し、課題や困りごとについて共通理解ができるようにしている。	訪問時の様子について、気になることや成長が見られたことがあれば保護者の方に直接伝えるようにしている。また、訪問支援のみ利用の保護者の方が記録を取りに来られた際には、できる限り訪問支援員が直接お話できるように心掛けている。	引き続き、丁寧に保護者の方と情報の共有やお子様についての共通理解ができるよう心掛ける。また、訪問時に気になる様子があれば面談などでお話ができる機会を設けるように働きかける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	毎度、訪問する訪問支援員が異なることがあり、専門性の違いや、状態の引継ぎが細かく行えないことがある	専門性の違いにより、児童の状態で注目している点が異なることがある。	担当者に一貫性を持ちながらも、必要に応じて他職種に意見を求める体制にします。これによって、支援の継続性を保ちつつ、多面的な評価も実施することができます。
2	保護者同士で話をする機会や、ペアレントトレーニングなど、保護者が学ぶような機会が少ない。	個別に面談を中心に家族支援を行っているが、保護者同士で関わる機会は少ない。	保護者向きの茶話会などのお知らせを事業所に掲示をしたり、個別でそのような会があることを伝える等の取組みを行ってきた。これから必要に応じてペアレント等の取組みについても検討していく。
3			